

一號國道視察自動車旅行感想記 (二)

一號國道の交通量について

神奈川縣道路技師 武 田 義 明

十一月十七日から十八日迄三日間に亘り道路改良會主催の一號道即ち參宮街路自動車視察團に参加させて戴きました際沿道内務省土木出張所各縣廳の方々はじめ市町村の至れり盡せる御歡待には本紙上を通じて心から感謝いたしました。お蔭様で愉快な最も有意義な旅行が出来ましたこの旅行を利用して何か一つ調べて見たいと存じまして、内務省の支關で急に思ひ付きましたのがこれから述べんとする交通量の問題であります。

これなら居眠さえしなければ大して困難でないと存じまして始めたのが、東京から伊勢神宮迄に何臺自動車に逢ふだらうかと云ふ調査であります。この調べは東京市内は少し困難だが後は別にそうむづかしくもない。而して無言の

行をしなくても済む事だと考へました。そこで調査方針として區域を東京市品川の八ツ山橋から神宮迄と定めました日本橋から八ツ山橋迄は調べる迄もなく全く織るが如き状態だし舗裝も立派に出来てゐる爲めまづ無數に多い事にして置いて差支へないと考へました又實際その通りでした。

次に時間は正確に記入し、なるべく縣別に分る様にする事にしました。此の調査の結果から見ましてあゝすれば良かったとか、こうもすれば良かったと色々考へ付きましたが、縣の方々の御案内も聞かねばならず同乗者と多少談話もせねばなりませんから、あまり詳細な調査は却て間違の因ともなり、途中中止する様な事になれば何にもならぬと考へまして、自動車と名のつくもの即ち貨物自動車、乗合自動車、一般乗用車、近頃流行のダットサンまで加へました。然し此の種の小型自動車は全體から見まして極で少

この表の結果から見ますと總延長四九一、三〇六米を平均時速二十九糎十六時間五十七分を要しその間正面から向つて來る自動車の臺數が一千二百七十三臺であります。この時間は自動車の停車時間或は國道外走行時間は全部控除いたしましたから國道の走行時間であります道路の各縣別の概況を見ますと

| 八ツ山 | 橋間延長 | 一四、〇五米(改修済) | (時速)三・七 |
|------|------|-------------|----------|
| 六郷 | 橋間延長 | 一四、〇五米(改修済) | (時速)三・七 |
| 神奈川縣 | 〃 | 九四、〇七〃 | 區間 五、一六〃 |
| 靜岡縣 | 〃 | 一八、三六〃 | 六、〇六五〃 |
| 愛知縣 | 〃 | 九五、三四・七〃 | 四、八九七〃 |
| 三重縣 | 〃 | 九九、五五四〃 | 三、一〇九〃 |
| 計 | 〃 | 四一、三〇六〃 | 二、九〇〇 |

即ち六割の未改修區間を有してゐます。

東京横濱間の交通は全く飽和の状態に達してゐる爲め舗装は完備されてゐても尙ほ時速三十三糎七より出てゐません。これは既に第一京濱國道新設に着手した所謂であり、二、三年内には完成する事になりませう。横濱以西神奈川縣

内は、路面舗装も大部分出來てゐるが、天下の險となす箱根山を控へた關係上素引力に於ても速力に於ても著しい損失を來してゐます。即ちこの箱根街道中延長十三糎三の間迄登るばかりで、平均十八分の一の勾配で海拔八百四十四米迄登つてゐます。これは如何とも出來ない、天下の險たる實證であります。今これを國府津或は小田原から鐵道省の舊東海道線沿線にとり山北經由にいたしますと、最高海拔僅に二百四十米前者と比し實に六百四米の登り降りを除く去する事になり交通に及ぼすこと實に甚大なもの有り國策として考へねばならぬ問題であります。静岡、愛知、三重の三縣は未改修區間を至急改修し少くも皇紀二千六百年祭までには是非共完成されん事を國民として希望して止まないものであります。

これが完成の曉には時速五十糎出す事は容易な事で、東京から神都まで十時間で充分に走破出來ると信じます。尙十年後には地方的に特別に交通量の大なる所の自動車急速車線を設置する事により時速百糎とし五時間以内で帝都

より神境に達する道路の實現を期する事は我等技術家の使命ではないでせうか。

国道壹號線の自動車視察旅行記

長野縣道路技師 有馬 博 雄

はしがき

本記事は昭和十一年十月十七日―十九日の三日間道路改良會主催國道第一號線自動車視察旅行に參加したる折の感想旅行記である。抑々國道一號線は東京市より伊勢大廟に至る路線にて舊東海道を占むる樞要幹線である。本自動車視察旅行は正に舊東海道五十三次を駕籠に代ふるに自動車を以つて突破する感がある而も此の自動車は純國産品を使用するとは頗る喜びにたへない。

道路改良會主催の此の視察旅行は新時代に適した壯舉にして獨り我等道路關係者の喜びのみならず現時代認識者の等しく雙手賛同する處である。

江戸日本橋を出發し秀靈富嶽を眺め一路江戸時代華かな

りし宿場の夢物語を車中の雑談と聞き流しつつ神域伊勢の大宮に領き視察旅行報告を終るとは正に昭和聖代の有難さを身に泌すには居られない。

第一日 改良會理事牧博士の出發御挨拶の終つた頃は天候險惡を加へ前途三日間の旅程に少なからず不安を増した。國産豐田織機の「スミダ」號に乗合せた會員は大部分自分には面識がなく最初は頗る心淋しさを覺えた。

愈々濫澤翁像前を通り日本橋元標を通過した時は「お江戸日本橋……」の例の彌次喜多氣分を深くした。

朝の銀座も今日は祭日の爲か早朝にも拘らず相當の人数があつた。おなじみの街路樹柳も流石は手入届き清楚であつた。國産「スミダ」の精製と京濱國道鋪裝の整備は相俟つて我等乗客乗心地に拍車を掛け上々だ「スピード」は時速四十軒だから耐らない。

品川を過ぎ川崎に向ふ自動車交通の多き事驚く勿れ半晝夜に一萬二千臺と案内の人は云ふ。流石の二二米幅員道路も頗る狹隘を感じた。去る議會を通過した新京濱國道の新

設の必要も大いに頷ける。文久の昔、勅使の前驅を無斷騎馬にて横斷した一英人を薩摩藩士が怒つて一刀兩斷にし大いに大名風を吹かした生麥事件の遺跡は今も垣々たる鋪裝道路の一隅に盛上られたる土手の上に淋しく碑を見るのみである。暫く車中に當時の有様を夢想し今昔の感に打たれつくゞ聖代に生を享けたる有難さを思ひ浮べ我に歸つた時は車中の會員が盛んに鋪裝の話をして居た。成る程此の附近は交通量多く盛んに自動車「ガソリン」が飛散し鋪裝面は其の種類の識別さへ出來ぬ程度になつて居つた。

快速「スミダ」號は容赦なく「ピッチ」を上げ新興横濱市を夢中に過ぎ去つた。横濱の市外に一寸未改修區間が在りし屈曲多く「ポットポール」の多き砂利道の區間が僅か續いた。此の區間は用地買収の關係上交渉が遅れ取殘された箇所だと案内の人は云ふ道路改修に付き物の用地問題は何處も同じと歎ぜざるを得なかつた。

保土ヶ谷附近より人家運搬せぬ部分は幅員も狭少となり中央部六米のみが鋪裝されて居て「サイド」は砂利道とし

てある此は費用の關係上延長の方へ成可く全力を集中した方が得策であると云ふ事である。鋪裝は大抵「セメントコンクリート」鋪裝にて中央に目地が通り長の方には十米宛に切つてあるのが目に付いた。「スミダ」號が快速力にて戸塚町を過ぎ行く時分は天候は益々險惡を加ふるも會員一同元氣旺盛にて旅行氣分は彌が上にも高上して來た。

此の附近國道筋に松並木が鬱蒼として居る。道路改修の爲此等松並木を成可く伐切せず國道天然風致を害ねない様改良技術が工夫されて居るのは嬉しかつた。原宿の八丁並木附近の改修は此の點を最よく考慮し約一杆の間改修道路を復線とし中央に松並木の自然風致を存置しあるのは實に氣持がよい此の地帯は爲に氣分百「パーセント」東京よりの「ドライブ」客は車を止めるのが例となつて居る相だ。藤澤町に到着する時分には雨も本降りとなり鋪裝面は洗滌され塵埃は無く反つて衛生的だと勝手な理屈を附けながらも意中悲觀する。雨の御蔭で明峰富士の雄姿を見る事さへ出來なかつた。

雨は益々激しい爲に窓硝子は曇り勝ち成り道路視察よりは車中雑談の方が餘程面白く成つて来た、中にも茅ヶ崎を通る頃今宿杭の説明が初る。此は舊相模橋脚の事にて其の昔源頼朝の臣稻元重成の架橋せし橋脚にて大正十二年大震災中より現れ是に依つて相模川は現在の位置に流身移動せしとの事珍しい話である。此の様な話は全國よく見聞する事であるが此の「今宿杭」の様に歴史的、地質的及技術的の多分に加味された實例は餘り多くなからうかと思はれる。此の地方關東大震災の慘禍を思ひ浮べ貴き幾多の犠牲者の冥福を祈らざるを得なかつた。

馬入橋を渡る。本橋梁工事工程半にして震災に遭ひ災害復舊工事として完成したものだ。平塚を過ぎ大磯町に入る。西行法師の

心なき身にぞ哀れは知られけり

鳴立澤の秋の夕暮

鳴立庵を左に過ぎ明治維新元勳伊藤公の別荘に通過す今して往年政客往來相踵きたる蒼浪閣のかたわらをは庭内樹

林鬱蒼として公の遺勳を偲ぶのみ。此の附近の國道は未改修なれど神奈川縣當局の努力に依り路面維持は雨中ながら立派なものである。國府津を経て小田原町に至る區間は立派な改修が續けられて居た。鋪裝の構造は「シートアスファルト」及「コンクリート」鋪裝の二種で幅員は一メートルと二二メートルの様であつた様に記憶する。小田原城跡と附近の報徳二宮神社に付ては全國的有名にて此處に説明の蛇足を省く事とする。

此の附近に來ると空腹は増々募る、後ひといきで天下の險箱根に掛る。流石は箱根の險だ現在道路勾配最急六分の一の處も有る様だ幅員も四、五米―五、五米と聽く。然し砂利道維持の行届いて居たのには當局に對して敬意を表す。「路面の維持は先づ排水の完備に有り」の原則も實によく實行されて居た。砂利道の維持もこの程度に實行されて居れば自動車乗心地としては寧ろ鋪裝道の夫に勝るとも劣る事はないと思つた。「一目三萬本の櫻と秋の紅葉で有名な小涌谷温泉附近を通つた時は雨と霧の爲眺望利かず會員一同を

落膽させた。彼の新羅三郎の笛塚も此の附近海拔一、〇二

富士の巻狩で有名な曾我兄弟之墓も此の附近海拔一、〇二

〇米の高所に有る事も知れた。此の地芦の湯村は日本最小

の村で戸數七戸と數へらる。村會議員は各家より選出され

て居る相である。人口は三十五人位かと問へば百五十人程

との事不審に思へば其の理由とする處當村家業は全部旅館

にて而も國勢調査の調査方法は調査當時に於ける滞在者全

部を算入するとの事之には一同啞然たりであつた。

愈々峠を越へ下り勾配と成る道路は「ジグザック」に折

曲つて居る待望の芦の湖が左右交互に見え初める。箱根神

社の御手洗と云ふ清澄なる湖面に浮ぶ逆富士の姿は今日に

限り一向見えない。然し湖面に浮ぶ小舟の自然さと附近の

山岳美は詩を解せざる筆者にも詩的情緒の一端を味覺出來

相な氣分と成つた。元箱根を過ぎ箱根町の關所趾に差掛る

右は芦の湖に面し左は箱根の險である。關所にはもつてこ

いの狭き處でその昔旅人の難澁が思ひ偲ばれる。今は昔の

名残も止めず芝生の上に關所趾の碑を存するのみ。時間の

都合上快速「スミダ」號中にて空腹を満たすのも「スピ

ド新時代に於ける旅行者の難澁の一つかとも思つた。

箱根峠を越へ愈々静岡縣に入る箱根八里も残り三里二十

八町で三島に到着する。峠附近で岐れる自動車道路は駿豆

鐵道株式會社經營にかゝるもので十國峠及當箱根間の一〇

料二二米にて幅員六米最急勾配二十分の一の「ドライブ

ウェイ」である。

其の昔江戸吳服町商人加勢屋與兵衛で有名な接待茶屋を

通り過ぎ幅員四、五米——七、二米の改修道路をまつしぐら

に走る。車窓より見える雜草生ひ茂る舊道は文久元年孝明

天皇々妹和宮内親王様が徳川十四代將軍家茂公に御降嫁の

年幕府は伊豆韮山代官江川太郎左衛門に命じ新設せしもの

にて當時の敷石は今尙舊道に現存して居る。

慶長九年徳川家康の定めた路法の一里塚もこん盛した塚

一對のみ残り榎樹は枯死して當時を偲ばしめる。

三島町に着いた頃は雨も小休となつた。一同下車往昔よ

り朝廷の尊信高く殊に源頼朝以來武將の尊崇厚きを加へた

官幣大社三島神社に参拜し非常時日本の發展と我等一行の旅行安泰を祈願した。三島地内改良國道は延長七六九、一米有効幅員一四、五米の堂々たるもので路面は膠石舗装であつたと記憶する。三島町より沼津市に至る區間は静岡縣下屈指の交通量を有する箇處と聞く途中電車軌道の併置された箇所が五五〇〇米も續き幅員も充分ならず、交通上多少の不安なきを保せないのは遺憾に思つた。特に沼津より富士川橋間は未改修區間二三、九〇〇米も有し屈曲多く舊態依然として中にも此の區間に東海道本線と平面交叉を成す事四回に及ぶは交通保安上支障甚だ敷き事と感した。

此の附近には白砂青松相運り樹間より靈峰富嶽を望み風光絶佳なる千本松原も在る。東海道中膝栗毛では喜多八をして「此の景色見ては休にやならの坂いざたばこにや千本の松」と歌つた處も此邊である。又車窓の富士即ち車中北窓に所謂左富士を仰ぎ見て行旅の爽快を味ふのも此の附近である。我等は天候に恵まれず、此の快味を味ふ事の出来なかつたのは本旅行中の憾みの大なるものであつた。

快速「スミダ」は本日の到着點静岡に向ひ「ピッチ」號を盛んに上げ早くも日本最大急流河川の一富士川を通過した。日本特有の急流河川改修難事業も美事完成を目のあたりにし本邦治水工學の一大進歩を祝福せずには居られなかつた。

富士川を渡り「アスファルトコンクリート」舗装道を西へ西へと走る。其の昔義經を追ひ來るも再會せず悶死した淨瑠璃姫の碑に衰れを止めながら明治元老田中光顯翁在任の蒲原町及怪傑由比正雪出生地由比町を過ぐれば東海道中箱根坂路と共に屈指の難路薩埵峠に掛る、勿論今は峠下の海岸寄に新國道が改修され一番坂二番坂險ヶ峰等の難所を味ふ事は出来ない。此の附近の改修道路は駿河灣に直面し波荒き時は路面に海水打上げ道路面は洗ひ去られる恐がある。海岸側は防波式「コンクリートウォール」にて繞し路面は「セメントコンクリート」舗装にて路面へ打上げた海水の排除は頗る良く考慮されてあつた。本箇所は昭和七年度國直轄工事にて施行されたもの由である。

興津町内町園寺公別邸坐漁莊附近の國道は未改修にて幅員狹隘の砂利道路にて知名政客往來著しき處には頗るふさわしからぬと思つた。

愈々江尻町を経て新興清水港を左に眺め有効幅員二二、八米延長二、〇九〇米の舗装道路を四十軒「スピード」にて一氣に静岡市へと走破し第一日目の旅装を解いた。

第二日 静岡——名古屋間の大旅程である。

相變らず雨に呪われ相な第二日目も昔業平朝臣が東下りをした時

駿河なるうつ山邊の現にも

夢にも人に逢ぬなりけり

と詠じた蔦の細道で有名な宇都谷峠を通過する頃より本降りと成つて來た。昔の蔦の細道は昭和四年を以て改修工事竣功し幅員七三米を有し峠は延長二二七、三米の墜道を以て打突かれ砂利道ではあるが堂々たるものであつた。

岡部町藤枝町島田町は何れも東海道五十三次の宿驛にて往時の繁華さは跡もなく特に本多侯四萬石の威令相行はれ

た藤枝町等は國鐵東海道本線を距る事遠き爲凋落の跡甚だ敷きを感じた。此の附近國道改修箇所も少なく自動車交通には難澁である。

東海道隨一の難所大井川に着いた萬世の遺物鞞臺の見物も雨の爲容易ではなかつた。大井川も今は「ガツチリ」した「ブラット」式鋼構橋にて架渡され橋面は「アスファルトブロック」を以て張詰られ旅行者に「クツション」の氣持ち良さを味はしめて居る。大井川を渡り牧野原一萬五千町歩の大茶園を左に金谷日坂間の雨中改修國道を走る、坂路最急勾配十五分の一であつたが雨中の爲か國産「スミダ」號も相當走行に難儀の模様であつた。菊川の里小夜の中山夜泣石の遺蹟も此の道中にあるを知つた。

日坂村、掛川、袋井、見付の各五十三次宿驛を経て天龍川に出る此の川は源を信州諏訪湖に發し伊奈節

天龍下ればしぶきがかゝる

持たせやりたや檜笠

で有名な伊奈峽、天龍峽、を經、南に轉じ遠州山香の山中に

入り敷川を併せて掛塚で海に入り四十八里を流れて居る。東京と京都の略中間に在る處で明治の初年鈴木某、淺野某が長六百四十六間幅二間の賃取橋を架したのが天龍橋の元祖である由。

新興濱松市を経て愈々濱名湖に出る、沿岸の浦淑山光水色と相掩映じ明媚風景類尠く眞に東海の勝地である。雨中の濱名湖橋梁を渡る工費八十八萬余圓ときく。中濱名湖橋、西濱名湖橋の二橋より成り何れも幅員七、二七——七、六四米を有する鐵筋コンクリート拱橋である。

新居の關を去り潮光坂を攀り白須賀町を過ぎ去れば愛知県三河の國に車は入る。未改修國道を走る事暫時にして豊橋市に到着する。此の附近國道は交通量多きにも拘らず改修のみ遅れて居るのは地方産業開發上歎し難く頗る遺憾に思つた。御油赤坂間は昔ながらの街並を以て續き道は丘陵の間を緩やかに縫ふて西進して居る。

豊橋岡崎間の鉢地坂墜道は延長四六八、四三米と云ふから相當長大な工事と思つた。路面は「コンクリート」舗装

と記憶する。この開發の爲當地方は國防上、産業上將又觀光上莫大の利益を上げて居る事は大いに刮目に値する。

徳川家康發祥の地岡崎市内國道は目下「トベカ」舗装工事中の最中であつた。日吉丸の遺蹟矢作川を渡り舗装道砂利道を交互に繰返しながら雨後の中秋を滿喫しつゝ北進を續ける。桶狭間古戰場附近へ來る時分は旅の疲れも可なり増して來た。然し車中の會員同志も相當顔慣れとなり「旅は道連れ」の例へに洩れず無聊を感じなかつた。

終に五時半我等は人口壹百拾萬を誇る中京に一步を印した。熱田神宮に參拜を終へた時は中秋の夕暮の肌寒さを感じた。

第三日 愈金鯨城下を發し伊勢大廟に向ふ最終日だ。到々我等は目的地に到着する。豫定「コース」を突破し得る確信を得た。然し遂に三日間天候に恵まれず本日も雨は執拗に降り續いた。名古屋桑名間の改良國道は本旅行區間中の正に花であつた。其の間に流れる木曾、揖斐、長良の三大川は往時より如何に交通の障害と成つたか。其の纒に頼

る渡船の危険にして不便さは如何に多くの旅人の胸を傷めた事か想像だに余り有る。

昭和五年愛知三重兩縣相次いで尾張、伊勢、二大橋梁の架設に着手した。近代橋梁技術の精「ランガートラス」の架設は終に昭和九年五月を以つて完成し東洋の二大偉觀は永遠に不朽の名橋を誇るのである。兩橋工費實に三百三十一萬。我等今此の偉大なる恩恵に浴すと同時に上流本松原なる薩摩義士の功績を賞へ一死以て君公に辨疏せんと欲し平田鞞負以下二十二名懽然として屠腹した昔時を偲ばずには居られなかつた。

桑名を過ぎ四日市に入る此の附近の未改修區間相續き交通の支障頗る多かつた事は遺憾であつた。國道一號線及二號線の分岐點追分には大鳥居が立つて居て古來より東國地方よりの伊勢神宮參拜の目標としたものである。

津、松坂の二大都市を過ぎ宇治山田に近づく此の附近民家の家根造が神社の夫に相似て作られて居たのは珍しかつた。午後一時頃には遂に東都より實に四九四、六軒の大打

程を終へ神都宇治山田に入つた。我等は三日間の旅の疲れも忘れ五十鈴川のほとりに鎮座まします皇祖天照大御神の神前に領き視察旅行報告を終へた。(一一・二二六しるす)

附記

本視察を終へ筆者は我國道路改良特に今般視察を終つた壹號國道の進歩改善は昭和七八年頃の夫に比し雲泥の差あるは慶賀に耐へない處であるが他部門産業施設に比し道路改良のみ遅れ勝ちなのは廣義國防のやかましい折柄特に其の促進の急なるを痛感した。

昭和十二年度膨脹豫算三十億余圓内譯中若干の國府縣道改良費の數字を發見し得たのは同慶に耐へないが、廣義國防の眞義を解し國內産業施設に今一步の重要視性を持たせたかつた。

終りに本旅行中關係各位の御配慮は云ふに及ばず府縣關係案内者各位の懇切丁寧な各種説明は我等旅行の目的に一段の光彩を與へられたものにして筆者僭越ながら滿腔の敬意と謝意を表するものなる事を附記して置く。